【兵庫県】

神戸市立科学技術高等学校

空飛ぶ車いす研究会

高校生ボランティア・アワード2022

「不要になった車いすの点検・修理」

活動概要

私たち、空飛ぶ車いす研究会は国内の病院や施設・個人などから使われなくなった車いすを提供していただき、洗浄・分解・整備など工業高校の特徴を活かした作業を行い車いすを安全で長く使えるようにし、東南アジア諸国などを中心に世界で車いすを必要としている人たちに寄贈する活動をしています。

提供してもらった車いすには不足している部品があることもあります、そういったときは学校にある機械を使用し溶接や金属加工で不足している部品を作成したりもします。

そして、2004年から寄贈し続けた車いすの台数が2017年6月で2000台を超すことができました、このことで各メディアからも取材があり、たくさんの方から称賛の言葉と今後の活動にも期待されるようになりました。

現在、2022年3月時点では2800台を超える台数になり、コロナ禍でもありますが地道に修理活動に取り組んでいます。2018年と2019年にはタイ王国へ車いすを実際に持っていき現地の利用者様宅へ手渡しもすることができ、貴重な経験をすることができました。

「安心・安全・確実の整備」

活動の目的・志など

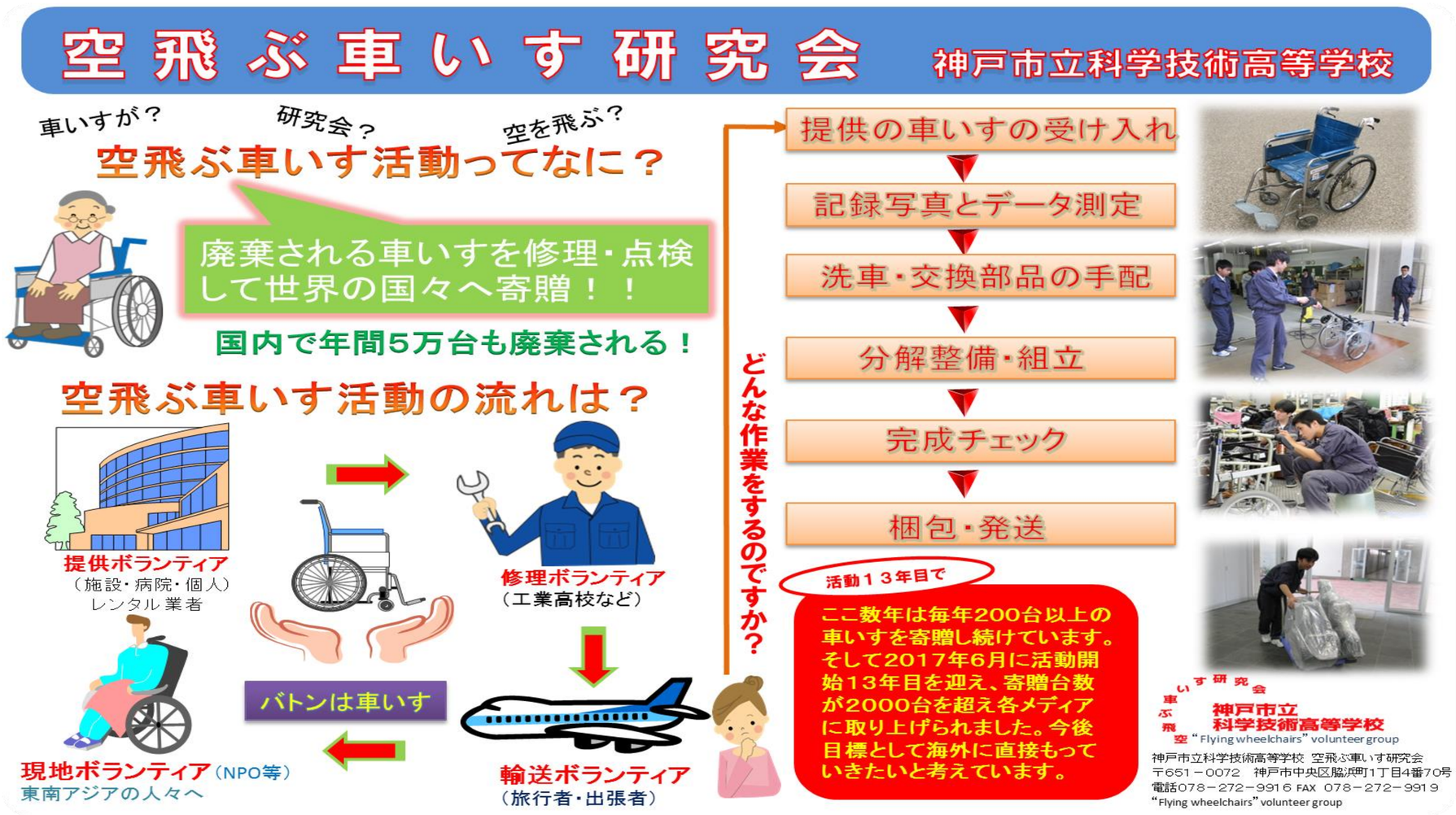
活動の特徴は工業高校ならではの活動ではないかと思います、工業高校では様々な工具や機械加工機があり、授業で教わった内容をこの活動で活かせることが強みです。

具体的には提供していただいた車いすの中には欠損している部品があり、特殊な部品でも本校にある機械を使用し製作できます、授業に直結した活動ができます。

また、車いすの修理に使用する工具も専用の工具がない場合は、現状の工具を加工し本校独自の工具を作製しました。　そして今までの先輩方から引き継いできた技術力で8年連続年間寄贈台数200台以上も達成しています、この台数は空飛ぶ車いす活動をまとめている日本社会福祉弘済会様からも本校だけだときいています。

このように毎年200台以上の車いすの寄贈をすることは日々の作業の工夫によるものだと思います。コンスタントに車いすの受け入れができる環境を作ることや作業の難易度によって作業人数を変更し作業のスピードや品質の向上を図る工夫をしています。これからも工夫と努力で技術力をもっと上げていきたいと思います。

「活動目標」（活動の「今」を表すワン・ワードなど）　活動の詳細（実施内容/成果・実績など）



「もう一度、利用者様のもとへ」　今後の展望・夢など

１８年間の活動の中で先輩からの受け継いだ技術力や車いすへの思いを私たちも後輩へとしっかりと引き継いでいき、世界で車いすを必要としている人へ寄贈し続けたいと思っています。

それと自分たちが修理・点検をした車いすを海外で必要としている方へ直接持って行き、使用している環境や雰囲気などを直接肌で感じ、今後の活動の役に立たせたいと思いが２年前からタイへ行きました。

日本社会福弘済会様のご厚意でタイ王国へ行き家庭訪問で直接利用される方に車いすを渡すことができました。しかし、ここ二年間は新型コロナウイルス感染症影響でその活動ができていません、今年はぜひもう一度利用者の元へ届けに行きたいと思っています。

今までは修理・点検した車いすを梱包して発送したら終わりでした、私は自分の手で修理した車いすを実際に利用される方の元へ持って行き、生の声を聴きたいと思っています。

社会人となってもこの活動に参加し海外へ車いすを持って行くボランティアをしたいと思います。

集

活動団体プロフィール

神戸市立科学技術高等学校では部活動と機械工学科の課題研究の授業でこの活動に取り組んでいます。主に部活動のメンバーで毎日１５:３０から１７：００までの時間で活動しています。メンバーは一年生が７名・二年生５名・三年生４名で女子生徒は６名です。
作業時間や作業スペースなど限られた場所で活動しています。
活動理念は提供していただいた方の車いすへの想いを胸に、「ありがとう」の気持ちで心を込めて作業し、次に使われる海外の利用者へ安心して利用してもらえるように丁寧に点検・補修をしています。
ボランティア作業ではありますが、メンバーの心には常にプロ意識をもって取り組んでいます。